



COPDは肺の病気で、正式には慢性閉塞性肺疾患といいますが、この病気は、少し動いただけで息が切れたり、せきやたんが続くといった症状が特徴です。気管支が炎症を起こす慢性気管支炎や、気管支の先にある肺胞が炎症により壊れてしまう肺気腫などによって引き起こされます。

原因としては、大気汚染や乳幼児期の呼吸器感染、遺伝的な原因などがあげられますが、特に、喫煙が最も大きな原因で、全体の80%を占めるといわれています。

COPDかどうかは、問診や身体所見で、ある程度の推測は可能ですが、胸部X線、CT画像、呼吸機能

蒲郡市民病院 呼吸器科部長 医師 杉浦方信 すぎうらまさのぶ

COPDについて

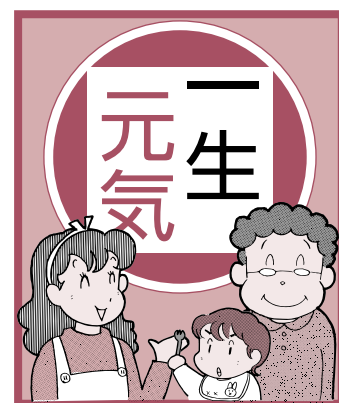
検査などの精密検査で肺の構造変化と、1秒間に吐き出すことができる空気量(1秒量)の低下が認められれば、COPDと確定診断されます。

患者さんの多くは、気づかずに重症になるまで放置しているのが実情です。治療しないまま放置しておく、進行して息苦しさのために日常生活が困難になったり、急激に症状が悪化する「急性増悪」を起こして命に関わる事にもなりかねません。少しでも思い当たることがあれば、早めに医療機関にご相談ください。

「糖尿病教室11月」
市民病院内科 66 2211
ところ 市民病院2階講義室
(15日)は市民病院7階食堂)
テキスト(200円)が必要となります。

とき	内容
10日(水)	糖尿病とは
11日(木)	日常生活の話
12日(金)	合併症、検査
15日(月)	食事の話
16日(火)	薬と運動の話

各日とも午後2時~3時



こころの病の中でも、うつ病は最もポピュラーで、別名“こころの風邪”とも言われているほどかきやすい病気です。また、最近はテレビや新聞などでもうつ病に関する内容が多く取り上げられており、関心が高まっています。

うつ病とは
うつ病は、もともとの人柄や発病の状況、症状の内容などによりいくつかのタイプに分けられ、その経過もさまざまです。近年は、いわゆる“軽症”のうつ病が増加しています。これは、仕事や人間関係などによるストレスが原因となっている場合が多いようです。また、“重症”の場合は、自殺の原因となることもあり、社会

問合先 福祉課 66 1106

「うつ病」はこころの風邪？

的な問題になっていきます。うつ病の発生率は約15%と7人に1人以上の人がかかっていることになりました。うつ病の主な症状としては、抑うつ気分、意欲・思考力、集中力の低下などのほかに、頭痛、食欲不振や体のだるさ、不眠、下痢・便秘など、身体的な症状が出る場合もあります。しかし、明確な症状が出にくいこともあり、原因がわからないまま長びくことも多いようです。

うつ病の対応
このような症状が現れた場合は、無理をせずに休養し、早めに医療機関での診察を受けることが重要です。最近では、心療科などのクリニックへの受診も一般的になってきていますし、投薬治療により8割は症状が改善するといわれています。

周囲の対応としては、本人のつらさを理解することが大切です。しつた激励はせず、暖かく長い目で回復を見守り、支えていきましよう。